

# 足浴が腸運動に及ぼす生理学的効果 - 腸音と自律神経活動の変化からみた評価 -

著者	草川 好子
発行年	2018-03-09
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10422/00012395">http://hdl.handle.net/10422/00012395</a>

氏 名	草川 好子
学位の種類	修士(看護学)
学位記番号	修士第229号
学位授与の要件	学位規則第3条第1項
学位授与年月日	平成30年 3月 9日
学位論文題目	足浴が腸運動に及ぼす生理学的効果 ー腸音と自律神経活動の変化からみた評価ー
審査委員	主査 教授 立岡 弓子 副査 教授 佐々木 雅也 副査 教授 河村 奈美子

## 論文内容要旨

*整理番号	234	(ふりがな) 氏名	くさがわ よしこ 草川 好子
修士論文題目	足浴が腸運動に及ぼす生理学的効果 — 腸音と自律神経活動の変化からみた評価—		
<p><b>【研究目的】</b> 足浴が腸運動へもたらす影響について検討する。同時に足浴が心拍変動、皮膚血流量、唾液αアミラーゼ活性へ与える影響を検討し、足浴が腸運動へ及ぼす影響のメカニズムを探る。</p> <p><b>【研究方法】</b> 研究に同意を得られた健常成人女性14名の対象としてデータを収集した。現在治療を要する疾患を伴う人、腹部疾患の既往のある人を除外基準とした。データの収集は、2015年8月～2016年12月の期間に行った。測定は防音個室で実施した。騒音レベル40dB±4dB、室温26℃に調整した。足浴は、39℃～40℃の湯に外踝上20cmまでを浸漬し15分間行った。腸音、心拍数、心拍変動、皮膚血流量の測定は、足浴前、足浴中、足浴後15分、足浴後30分の各々の時間帯に5分間の測定を行った。唾液αアミラーゼ活性の測定および質問紙の記入は足浴前と足浴後におこなった。各測定項目の分析は、腸音、心拍数、心拍変動、皮膚血流量では、上記の5分間の測定データを平均したものを各時間帯のデータとした。足浴前のデータを基準値として、各測定値との差をWilcoxonの符号付順位検定にて検討した。唾液αアミラーゼ活性値、質問紙のデータは足浴前、足浴後の測定値の差をWilcoxonの符号付順位検定を用い検討した。データ解析は、統計パッケージソフトSPSS Ver. 2.2 for Windowsを用いておこない、統計学的有意水準はp&lt;0.05とした。</p> <p><b>【結果】</b> 1) 足浴による腸音の亢進をみとめた。 2) 心拍変動の検討では交感神経活動の亢進を示す結果が得られた。 3) 足浴によって手指の皮膚血流量は減少した。 4) 唾液αアミラーゼ活性は足浴後に低下を示し、副交感神経活動が亢進することが示唆された。 5) 質問紙からは質問事項のほとんどすべてで有意に心地よさを示す結果が得られた。</p> <p><b>【考察】</b> 本研究では、足浴により腸音が亢進することを明らかにした。同時に検討した自律神経活動の検討では、方法によって、交感神経が優位になるという結果と、副交感神経が優位となるという相反する結果がみられ、足浴による腸音亢進のメカニズムへの自律神経の関与については明らかとすることは出来なかった。この差異の理由は不明であり今後の検討課題であると考えられる。腹部の皮膚を直接温める温罨法と違い、足浴は腹部とは離れた足部に対するケアであり、腹部手術後の患者などにも適用することができ、より多くの機会に安全に施行できる看護ケアであると考えられる。</p> <p><b>【総括】</b> 足浴が腸音を亢進させることを明らかにした。このメカニズムについては不明な点が多いが、腹部手術後の患者を含む多くの患者の腸管運動をサポートするためのケアとして有用であると考えられる。</p>			

- (備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1,200字程度)  
2. ※印の欄には記入しないこと。